

学校と地域をむすぶ

かけはし

大津市立葛川小中学校
地域コーディネーターだより

NO. 4

2017. 10. 5

いつもとちがった運動会

9月16日、学校と地域の合同運動会が行われました。今年度は、台風18号の接近により、本番日、予備日ともに雨が避けられない状況にありました。しかし、子どもたちからの「地域の人たちといっしょに運動会がやりたい」という声や、「学校の子供たちの競技を優先してやったらどうか」という体協の方々の声があり、体育館で運動会が行われることになりました。朝から降り出した雨にもかかわらず、早くからたくさんの方々にお越しいただき、例年とは違った形の運動会を味わうことができました。

小中学生25人が、赤白2チームに分かれて、競技や応援にいどみました。今年のテーマ「WIN? WIN!? WIN!!」をめざして、運動会の皮切りは「応援合戦」。



1学期から内容や小道具などを考え、両チームともに練習を通してそのチームワークを高めてきました。体育館に響きわたる声や手拍子。アイデア、ユニークさ満載の応援に、見ている人たちからも笑い声がおこりました。この日に向けてチーム一丸となって取り組んできたことを思い切り出し切った応援合戦。これを契機にしてこの後の競技にも熱が入りました。



大縄を使った「8の字跳び」。小学1年生から中学3年生までがいっしょに8の字を跳ぶということはとても難しいこと。限られた時間により多く跳ぶことが必要。みんなが跳べるようになるにはどうしたらいいのか？縄が速くなるとひっかかってしまう。こわくて入れない人もいます。各色方法を考えながら練習に取り組んできました。そして、迎えた本番。速いスピードの縄にみんながどんどん入って跳んでいきます。「ハイ、ハイ、ハイ！」というかけ声。「せいのお〜」の合図や背中をポンと押してあげることでみんなが縄に跳びこんでいくことができました。勝敗も気になりましたが、何よりもチームのみんなで作った記録にやりきった思いを持つことができました。

小学生のカラフルな手旗を使ったダンスや、中学生のリズムに乗った速い動きのダンス。何度も練習を繰り返し動きを覚えていくうちに、楽しく踊れるようになりました。小中学生合同の組体操。

小学生だけの一人技や二人技などにはじまった組体操は、後半、中学生も入り技をきめていきました。下で支えてくれる人を信じて上に乗った人はポーズをきめます。重いこと、痛いこともがまんして耐え抜きます。初めは、できなかった技も、練習を重ねるごとに



できることが増えてきて、自信を持って取り組むことができるようになりました。体の大きさや体力



も違う小中学生がみんなで作り上げた技。最後まで気をゆるめることなくやりきりました。「真剣、辛抱、信頼」をめあてに毎日取り組んできた練習を経ての本番。一人ひとりの力が生み出した大きな力を感じることができました。

今年も寿会の方々がたくさん来てくださいました。小中学生が寿会の方々といっしょに「勝つまでジャンケン」。子どもたちが寿会の方々の前まで走っていきジャンケンをします。「ジャンケンポン」子どもたちはあせっていますが、おばあちゃんたちはゆっくり「じゃ～んけ～んぼ～ん」。その速さに合わせる子どもたち。座っておられるおばあちゃんたちに視線を合わせるように腰をかがめてジャンケンをする子どもたち。おばあちゃんたちに勝つまではもどれません。「負けたあ」「強い～」と声をあげながらも楽しそうな笑顔。ジャンケンを通して触れ合いながらなごやかなひと時が流れていきました。



子どもたちの演技や競技の合間には、地域の方々といっしょに楽しめる競技。毎年、誰もが「一番楽しみ」と口をそろえて言う恒例「パン食い競争」。お母さんといっしょに小さい子ども、卒業しても絶対これだけはと卒業生、スタートからやる気満々の地域の方々、そして真剣勝負の小中学生。パンをぶらさげた竿を持つ体協の方々、レースごとに竿の高さや揺らせ具合を変えて楽しみます。なかなか食わえられないパンをゲットできた時のあの笑顔。見ているだけで楽しく盛り上がりました。

「ファイヤーマンレース」も子どもたちの大好きな競技の一つ。水鉄砲でお菓子を打ち落とすのが本来のこのレースですが、今年は体育館でやるので水は使えず。体協の方々が、新しい競技法を考えてくださいました。玉を当てて打ち落とすというもの。これはけっこう難しい。なかなか落ちないお菓子にみんなはどんどん近づいていきます。「がんばれ～」と周りからも声援。いつもと違う競技を楽しむことができました。

小中学生が行った障害物走にもたくさんの方々に参加してくださいました。小さい子どもたちも卒業生も必死に網をくぐりぬけます。小中学生のレースでは、借り物もあって、見ている人たちに「〇〇の人～」と声をはりあげ、物や人を探します。「あるよ、あるよ、これ」と物を持って走って来てくれる人。「太鼓廻しをしたことのある人～」など、葛川にちなんだお題もあり、「ハイ、ハイ」と手を上げて飛び出して来てくれる人。勝負も大事でしたが、何が飛び出すだろうというワクワク感と、見ている人もスタンバイしてくださっている一体感で競技は盛り上がりました。

お昼休みのひととき。これも恒例の「ビンゴゲーム」。たくさんの方がいる体育館なのに、この間はしんと静まりかえり、みんなは息をこらすようにビンゴガールの引くナンバーに耳を傾けます。「45番!」「リーチやあ」と前に走っていく人。「ダブルリーチやのに当たらへん」と次に期待する人。それでも、ビンゴで賞品をもらって帰ってくる人には「おめでとう～」とたくさんの拍手。みんなが楽しむことができました。

葛川の北部・南部、久多の3チームが対戦する地域の方々の競技。体育館でできる競技のみとなりましたが、「玉入れ」や「ねずみのしっぽふんじゃった」などの競技で熱戦が繰り広げられました。観戦する子どもたちも「がんばれ～」「たくさん入ってる!」「あぶな～い」など声援を送りました。



子どもたちの競技や演技を中心にプログラムを変えて行われた



体育館での運動会。一度幕は閉じましたが、台風や雨雲が過ぎ去った20日に、体育館でできなかった、50m走や綱引き、リレーの3種目の「第2弾運動会」が行われました。全力疾走する50m。かけ声を合わせ、ふんばって力を出し切った「綱引き」。そして、1学期から小中合同体育でバトンパスを中心に練習し、各色作戦を練って挑んだ「リレー」。自分の力を最大限出しながら、「GO!」「ハイ!」と大きな声をかけて次のランナーにバトンを渡します。バトンでつないだみんなの絆。閉会式では、体育館での運動会でお預けになっていた得点発表も行われました。



走る姿や綱引きでふんばる姿をたくさんの方々に見て応援してほしかった気持ちもありましたが、体育館の中で声も力も出し切り、いつも以上に近い所から大きな声援や拍手をいただくことができたことは、例年にはない感動があったことと思います。また、運動場よりもかなり狭い空間の中で小さい子どもたちからお年寄りの方々まで、みんなが触れ合い楽しむことができた熱く盛り上がった運動会でした。雨にも関わらず来ていただいたたくさんの方々、例年にない準備や後片付け、子どもたちの種目を優先していただいた体協の方々、ありがとうございました。

5年生の間伐体験

5年生は水環境の学習に取り組んでおり、12月に行く「フローティングスクール」に向けて特に琵琶湖に通じる安曇川の学習をしています。1学期には久多の小阪さんにかだの話をお聞かせいただきましたが、川と関係の深い山の木にも目を向け、自分たちで間伐をしてみたいという思いを持ちました。そこで、森林組合の中西さん、織田さんにお世話になり、平の山で間伐体験をさせていただきました。林道沿いの山にはたくさんのスギの木。10mをこえるぐらいの高いスギの木です。その1本を切るという作業を教えてくださいました。なぜ、間伐をするのかという話を聞いた後、いよいよ木を切る準備です。ロープで引っ張って木を倒すためには、そのロープを木にくくする必要があります。少しでも高い所でロープをくくりつけた方が、引っ張った時に力が入りやすいということで、木にまわしたロープを振り上げます。はじめは、なかなかロープが上がりませんが、いろいろ試してやってみるうちに、コツがわかってきたようで、だんだん高いところまでロープが上がるようになりました。それでも、中西さんがやられると一発で高い所にロープが止まりました。次はチェーンソーで木の倒れる方に切り口を作ってもらい、反対方向からのこぎりで切っていました。交代しながら慎重にのこぎりを引いていきます。「刃が曲がっているとなかなか切れないよ。水平に動かして」と織田さんにアドバイスをもらいました。だんだん木の中心にのこぎりが近づいてきました。そして、いよいよロープを引っ張り木を倒す作業



です。声を掛け合いふんばりながら、力を入れてロープを引っ張りました。ミシ、ミシッ！木が傾き倒れました。木の倒れる方向を考えて切り口を入れておいてくださったので、他の木に当たることなく、隙間をねらって木は倒れました。木の切り口には年輪がありました。数えてみると26本。年輪を見ながら「この頃木はまだ元気だったが、この頃から弱ってきたなあ」ということも教えてくださいました。ただ木を切るというだけでなく、小阪さんのお話にあったように、この切った木を使っていかだをつくり、川に流して乗ってみたいという思いを持っている5年生。そのためには、



木の皮をむき乾燥させなければなりません。「じょうれん鎌」という名前の大きなピーラーのような道具で、木の皮をむきました。木の節の所はとても固くてなかなかむけませんでしたが、反対方向からやってみたり、思い切り力を入れたりしながら何とかむくことができました。だんだん、白い部分が出てきて、触ってみるとつるつるでひんやりしていました。木が水を吸い上げていたことがわかりました。3mぐらいの木3本の皮をむくことができました。今の状態の木を川にうかべ

ても沈んでしまうので、冬の間、乾燥させることが必要だということがわかりました。6年生になった時には、この木を使っていかだを組む作業がはじまりそうです。1本の木を切るためには、いろいろな道具や工夫が必要であることや、その作業はとても危険なことなので真剣にやらなければならないこと、そして実際に作業をしてみると思っていた以上に力がある作業であるのだということをおぼることができました。